

平成29年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月1日実施)	総合評価(3月22日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	①生徒一人ひとりの自主的・意欲的な学習を支援するために、基礎学力の定着と生きる力を育む教育課程を編成する。 ②授業内容の精選、教授法の研究に組織的に取り組み、授業力向上を推進する。	①生徒一人ひとりの進路実現に向けて、より良い教育課程を編成する。 ②基本的な学習習慣を身につけさせ、AL学習を基調とした授業を実践し、確かな学力の育成を目指すとともに、進路実現に結びつく学びのために組織的な授業改善を推進する。	①多様な進路の実現を支援し、生徒の実態に応じた系列科目の設置を検討する。 ②組織的な授業改善に向けて、授業研究や研修会などを計画的に実践・研究し、生徒が主体的に取り組む授業のあり方を職員間で共有する。また、教材の共有及び同一科目における共通テストを進める。	①生徒の興味・関心に基づいて、生徒の進路保障となる選択科目の検討及び設置ができたか。 ②80%以上の生徒が分かり易い授業であり、主体的に学習活動に取り組むことができたことと評価したか。 ③各教科において組織的に教材研究に取組み、教材の共有化ができたか。 ④同一科目における共通テストを100%実施できたか。	①平成30年度から進路保障につながる学校設定科目「アドバンス・イングリッシュ」「ドローン活用講座」「商業簿記」「工業簿記」4科目を新設した。また、学校設定科目の整理を行った。 ②生徒による授業評価により、78%の生徒が分かり易い授業と評価した。主体的な学習を意識した授業展開を行っている。 ③「主体的に取り組む学習活動」をテーマに授業改善研修、教科ごとの研究授業を行った。 ④同一科目の共通テストは、83%実施となった。	①単位制における学年進行型及び高大接続を視野に入れたよりよい教育課程を編成する必要がある。 ②新学習指導要領に沿った「主体的・対話的で深い学び」をテーマに全体研修会・各教科の研修会・研究授業を行う。外部の授業改善研修会に参加し、情報の収集・共有を図る。教材の共有化、共通テストの実施をより一層進める。	①引き続き特色を生かした教育課程の編成を望む。 ②授業改善の取組が活発に実施されている。 ③主体的に対話的な学びなど、学力の定着を意図した授業実践が展開されている。	①生徒の進路保障に結びつく学校設定科目を4科目設置した。 ①学年進行型の教育課程と平成28年度入学の教育課程が混在するので運用において整理する必要がある。 ①高大接続に対応した情報収集は計画どおりにできた。進路支援に向けて学習活動の取組と成果をデータ化する必要がある。 ②ビデオによる授業改善研修会・研修会報告会を行った。 ③教育の質や継続性の担保のためテストの共通化を進める必要がある。	①教育課程に関わる外部の情報収集を図り、より良い教育課程の編成を目指す。 ①開講講座数と履修人数の調整を行い、円滑な教育課程の実践に取り組む。 ①e-ポートフォリオの作成に着手する。 ①新たな調査書作成の雛形を作成する。 ②主体的に対話的な深い学びの実践に向けて、組織的な授業改善に取り組む。 ②外部の教育機関を利用した授業改善に取り組む。
2 (幼児・児童) 生徒指導・支援	①生徒一人ひとりの自己肯定感を育み、安全かつ安心して生活が送れる学校づくりを進める。 ②心と体の健康と「いのちの尊重に関する教育」の組織的な研究・実践を推進し、社会性と主体性を伸長する。	①基本的生活習慣を身につけさせ、ルール・マナーを遵守し、規範意識を育成する。 ①部活動を活性化し、加入率の上昇に努める。 ②生徒相談の充実を図り、安心して過ごせる学校環境の維持に努める。 ③「いのちの尊重に関する教育」の取組を継続し、校内外の相談体制を構築する。	①朝の立ち番指導、遅刻指導を継続する。 ①年2回いじめアンケートを実施し、生徒の実態を把握する。 ①入部率を上げるために仮入部期間を長くするとともに、中学との部活動交流を行う。 ②生徒支援に向けた職員の研修会を実施し、より良い生徒支援となる知識や技能の獲得を目指す。	①遅刻者や苦情件数、特別指導件数が減少したか。 ①いじめ問題の早期発見・早期解決に向けて、組織的に取り組んだか。 ①部活動の入部率が50%を超えたか。 ②必要に応じてケース会議を設定し、情報を共有しながら多角的な視点に立って、課題解決ができたか。 ③「いのちの尊重に関する教育」に係る教職員研修を1回以上実施できたか。	①遅刻指導・頭髮指導を丁寧に行った結果、指導の効果は表れたが、外部から生徒のマナーに関する苦情電話は寄せられた。 ①実名いじめアンケートを実施し、いじめの抑止と早期解決に取り組んだ。 ①仮入部期間を長く設置したが、部活動加入率は40%台だった。 ②生徒からの相談に対してケース会議を設定し、SSWとの面談を12回、児童相談所との連携を5回実施した。 ③職員対象の応急処置の研修を3回、人権研修を1回行った。	①巡回指導が苦情電話の減少につながらなかったが、継続して立ち番等を行うルール・マナーの遵守に向けた注意喚起を行い、特別指導前段階の指導を行う。 ①より良い特別指導となる規定の見直しを行う。 ①部活動加入率の増加に向けて、中学との交流を図る。 ②SNSに関わるきめ細かな指導やいじめアンケートを計画的に実施する。 ③専門機関との連携を図り情報を共有する。	①生徒の問題行動に対する指導は、苦勞も多いと思われるが、引き続き丁寧な指導を続けていただきたい。 ①社会性・道徳性・他者理解を意図した教育活動に期待する。 ①通学時のマナー向上に向けて引き続き取り組んでいただきたい。 ①部活動の経験は、親和力、協働性、行動持続力、自信創出力、感情抑制力にプラスに働く。継続的に部活動加入率の増加に向けて取り組んで欲しい。	①昨年度に比べて生徒指導人数の総数は減少が見られたが、継続して基本的生活習慣を身につけさせる必要がある。 ①部活動優先日を設け部活動の活性化に取り組んだ結果、入部率の若干の上昇が見られたが、継続して入部率を高める取組が必要である。 ②教職員を対象とした生徒支援にかかわる研修会を行うとともに、SC・SSW及び関係職員との情報共有を図り、必要に応じた生徒支援ができた。継続して計画的な生徒支援を心がける必要がある。	①職員が一丸となって正門指導・頭髮指導及び校外巡回を行う。 ①いじめアンケートを行い、生徒の実態把握をする。 ①部活動の活性化に向けて小学校・中学校や地域との交流を積極的に行う。 ②SCやSSSWを効果的に活用するとともに、必要に応じてケース会議を開催し、より良い生徒支援に取り組む。
3 進路指導・支援	①生徒一人ひとりに応じた進学・就職に向けた指導を充実させる。 ②ガイダンス科目を通して社会的・職業的に自立することを目指す人間を育成する。	①生徒一人ひとりに応じた進路指導を行い、希望の進路実現率100%をめざす。 ②各年次のガイダンス科目の内容を充実させ、生徒が主体となって課題解決に取り組む、社会的・職業的に自立しようとする態度や能力を育成する。	①進路説明会や三者面談が効果的に実施できるよう内容や資料を充実させ、進路指導の系統化を図る。 ①校外連携講座など学校外活動への参加を生徒に積極的に呼びかけ、生徒が主体的に進路活動に取り組む環境を整える。 ②生徒が主体となり、調査・分析・考察・発表などの活動をおして、課題解決に向けた取組ができよう教材を作成し、指導する。	①希望の進路実現率が80%を超えたか。 ①年次進行による系統だった三者面談の内容、資料の見直しできたか。 ①校外連携講座やインターシップ等への参加者が増加したか。 ②70%以上の生徒が自己達成感を持つとともに、社会的・職業的に自立しようとする意識が高まったか。 ③他者を理解し尊重する態度を獲得できたことと評価したか。	①進路実現率は90%、就職内率は95%を達成した。 ①各年次とも資料を整え計画的な保護者面談ができた。 ①看護師体験などインターシップや大学の講座、校外連携講座参加者は24名となり、昨年度より12名増加した。 ②80%以上の生徒が充実感を持っており、社会的・職業的に自立しようとする意識が高まった。 ③課題解決の取組結果を発表することで、お互いの考えを知り、他者理解の深化につながった。	①放課後、3年次生の進路説明会全員参加は難しかった。今後、ガイダンス科目を利用した進路研究を行う。 ①1年次・2年次の保護者向け進路説明会の参加人数が少ないため年次の協力を得るとともに内容の検討を行う。 ②教材の工夫を行い、課題解決に向けて思考力・判断力・表現力を高め、体験活動等の発表をおして社会的・職業的に自立に向けた支援を行う。	①生徒のニーズに対応した進路指導が実施されている。 ①少子化の進行や雇用情勢の変化・上級学校の変化に対応した工夫のある進路支援が求められる。 ①進学率は学校評価につながっているため、更なる進路支援に期待する。 ②課題解決に向けて協議し、考えをまとめて発表することは、コンピテンシー面、リテラシー面でも様々な力が付いている。 ③どのように生きたいのか、ライフステージを意識したアプローチに期待する。	①全年次において計画的な保護者面談ができた。また、進路実現に向けて複数回面談を行った結果、進路実現率は90%となった。 ①3年次において面接練習を複数回行うなど、計画的に進路支援を行なうことができた。また、さらに目的意識を持った進路活動を行なうための取組が必要である。 ②主体的な課題解決の取組をおして、人間的な成長は見られたが、ライフステージを見通して高校卒業後の進路先探しにとどまらず、生き方の支援をするための取組が必要である。	①生徒のニーズに対応した進路指導を実現するために進路決定に役立つ情報の提供を工夫する。 ①高大接続改革に対応した進路支援を行なうために、1・2年次から進路実現に向けた支援を行なう。 ②社会的・職業的な自立を支援するため、外部講師を計画的に招聘する。 ③課題解決において、調査・分析などデータに基づいた考察ができるよう支援する。

4	地域等との協働	<p>①地域との協働を推進し、地域に信頼される学校づくりを進める。</p> <p>②社会に貢献し、開かれた学校づくりを目指す。</p>	<p>①地域の行事に協力し、生徒や PTA が積極的に参加できる環境を整備する。</p> <p>②公開授業等、学校の持つ教育機能や施設を積極的に地域に提供する。</p>	<p>①地域の行事やボランティアへの積極的な参加を呼びかけ、社会貢献が重要であるという意識を育む。</p> <p>②学校 HP をとおして本校の情報を発信するとともに、地域の方々との交流や地域事業所等などの教育力を活用する。</p>	<p>①生徒や PTA の社会貢献への意識が高まったか。また、参加者が増加したか。</p> <p>②HP の更新が適切に行われたか。</p> <p>②公開授業の参加人数が増えたか。</p> <p>②地域や事業所等の教育力を活用できたか。</p>	<p>①園芸同好会、ボランティア委員会、ダンス部、合唱部、吹奏楽部など延べ 97 名の生徒が夏祭りなど地域の行事等に参加し、ダンス部の活動は県から表彰された。全年次地域貢献活動を行い、生徒のボランティア活動の意識が高まった。</p> <p>②HP を利用して教育活動の様子や学校説明会の情報を発信した。また、学校紹介 DVD 作成した結果、学校説明会の来校者は大幅に増加した。</p> <p>②情報ビジネスの授業で、大塚製菓の協力を得て課題解決学習を行った。</p>	<p>①地域の教育力の活用に向けて、地域との連携をより一層深める。</p> <p>①生徒自身に地域貢献の意義を考えさせる。</p> <p>②学校 HP を最大限利用して、本校教育活動の情報発信に努める。</p> <p>②教科や部活動と連携し、学校紹介 DVD を生徒に作製させる。</p> <p>②事業所等の教育力をより一層活用する。</p>	<p>①地域の特性を活かして、外部機関との連携などを探りながら地域に根ざした学校としてさらなる実践を期待する。</p> <p>①地域と協働する取組みにより、地元の学校評価は良くなっている。今後も地域に親しまれる学校としての存在になって欲しい。</p> <p>②総合学科の特色や魅力が伝わるような広報活動に期待する。</p>	<p>①地域の夏祭りや防災訓練に参加し、地域に根ざした学校づくりに取り組んだ結果、ダンス部の活動は県から表彰されることとなり、信頼される学校づくりの推進は進んだ。小学校・中学校との連携行事を検討し、より一層地域に根ざした学校づくりを推進する必要がある。</p> <p>①介護施設などの事業所を教育の場として提供していただき、開かれた学校づくりの推進を図った。より一層地域社会と関わる教育活動を推進する必要がある。</p> <p>①中学校訪問を行い、本校の情報提供を丁寧に行った。</p> <p>②HP の更新を積極的に行ない、特色のある授業・特別活動及び部活動の様子が中学生及び保護者に伝わるよう取り組んだ。</p> <p>②平成 29 年度の広報活動が平成 30 年度入学者選抜の募集人数増加につながった。継続して情報発信を行う必要がある。</p>	<p>①高校生による防犯教室を小学校で実施する。</p> <p>①夏休み、近隣の中学生を対象にドローン活用講座を 2 日実施する。</p> <p>①地域の夏祭りや防災訓練への参加、地元に戻元できるボランティア活動に継続的に取り組む。</p> <p>①コンソーシアムの活用を推進し、生徒の主体的な取組を地域の活性化へとつなげ、地域に根ざした学校づくりに取り組む。</p> <p>②HP の更新を適切に行い、本校の教育情報を 20 回以上発信する。</p> <p>②公開授業や学校説明会の参加者が平成 29 年度以上となり、本校志願者の増加を図る。</p> <p>②コミュニティスクールを有効活用し、教育活動の充実を図る。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>①すべての職員が不祥事防止の意識を持ち、保護者・地域・県民から信頼される学校運営を行う。</p> <p>②生徒の安全・安心の確保のため、環境教育や防災教育を充実させる。</p> <p>③組織的な学校運営のため、OJT による人材育成を進める。</p>	<p>①不祥事防止の職員意識を高め、不祥事ゼロを目指す。</p> <p>②計画的な防災訓練及び地域と連携した防災訓練の実現に取り組む。</p> <p>③組織的な業務遂行をとおして職員の資質・能力を高める。</p>	<p>①定期的に職員による事故防止会議を実施するとともに事故防止に向けた研修会を実施する。</p> <p>②防災教室・防災訓練を計画的に実施するとともに、地域と連携し具体的な防災訓練の検討を行う。</p> <p>③複数担当制によるチェック機能の充実と引継ぎ体制を確立する。</p>	<p>①教職員による事故防止の発表を年間 10 回以上できたか。</p> <p>①事故不祥事防止に向けた研修をとおして職員の意識が高まったか。</p> <p>②計画的な防災教育ができたか。</p> <p>②地域の防災訓練を把握し、本校が具体的に協力できる内容を検討したか。</p> <p>③業務の引継ぎが組織的に円滑に行われたか。</p> <p>③保管文書の整理整頓ができたか。</p>	<p>①管理職・職員による事故防止会議を 26 回実施した。</p> <p>①外部講師による事故不祥事防止会議を実施し、職員の事故不祥事防止に対する意識を高めた。</p> <p>②職員・生徒によるDIG 研修・避難訓練を実施した。</p> <p>②麻生区の防災訓練に参加した。また麻生区担当者と地域防災に関する打合せを行った。</p> <p>③業務年間計画表を作成し、業務管理をしやすくした。</p> <p>③各グループ起案文書を一括管理することとした。</p>	<p>①県民からより一層信頼される教育の提供に向けて、職員一人ひとりの意識の深化となる職員主体の研修を計画的に行う</p> <p>②大災害発生に備えて、職員・生徒の防災に対する知識・理解を深める教育を計画的に行う。</p> <p>③職員の世代交代に備えて、業務の引継ぎ、効率的な文書・データ管理を図る必要がある。</p>	<p>①ヒヤリ・ハット事例の情報共有を通じて、安心・安全な学校づくりに引き続き取り組んでいたきたい。</p> <p>②地域と協働した防災訓練に期待する。</p> <p>③引き続き総合学科の魅力を発信する取組を組織的に行って欲しい。</p>	<p>①事故・不祥事防止会議を年間 31 回行ったが、職員による交通事故が 1 件発生した。事故・不祥事ゼロを目指して継続的に研修や事故防止会議に取り組む必要がある。</p> <p>②DIG 研修や地域の防災訓練への参加は計画的に実施できた。災害に備えた防災に対する訓練や知識・理解を定着させるためにも、関係グループが計画的に準備する必要がある。</p> <p>③業務年間計画を作成し円滑な業務遂行ができるよう取り組んだ。文書管理においては各グループが責任を持ち整理整頓を行う必要がある。</p>	<p>①不祥事防止研修会・人権研修会を 1 回以上実施する。</p> <p>①事故・不祥事防止会議を年間 30 回以上実践する。</p> <p>①事故・不祥事防止をテーマとして川柳を作成し、会議資料のフッターに利用する。</p> <p>②DIG 研修を計画的に実施する。</p> <p>②地域の防災訓練に参加し、県立高校ができる支援活動を整理する。</p> <p>③適切な文書管理及び利用しやすい電子データ管理を行う。</p>